

■「効果の見える治水事業」  
愛媛県 本谷C地区（大洲市）急傾斜地崩壊対策事業  
『急傾斜地崩壊対策工事が平成 29 年度上半期概成予定』



愛媛県南予地方局大洲土木事務所長 いしぎま けいぞう 石崎 桂三

■事業の概要

大洲市は、伊予灘に面する海岸部と県内最大河川である肱川流域の盆地部、そして大部分を占める山地部からなり、盆地部を除くと急峻な傾斜地が河道まで迫る特徴的な地形となっております。県土のほぼ長軸方向をほぼ平行に縦走する中央構造線等があり、構造線に挟まれた風化剥離性に富む脆弱な地質であることから、地滑りや崩壊の多発地帯でもあります。

大洲市南西部に位置する当箇所は、人家 16 戸及び生活道路である（一）大洲保内線で結ばれる山間集落地であり、急峻な斜面は強風化岩を主体とし脆弱な地質で、平成 18 年度の豪雨により崩壊が発生しました。それにより、人的・物的被害はなかったものの地域住民からは対策工の整備を求める声が高まっていました。

本事業は、平成 20 年度に着手し平成 29 年度上半期には概成する予定であり、本年度発生した梅雨前線豪雨等においても被害は発生せず、地域住民の安全・安心に大きく貢献しています。

■土砂災害対策の取り組み

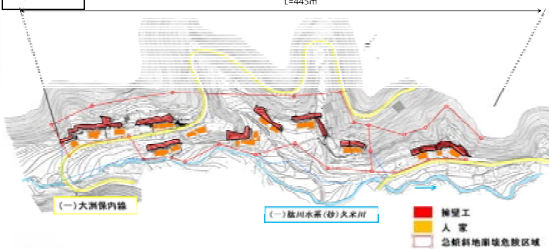
本県では、土砂災害から県民の生命・財産を守るため、ハード、ソフト両面から、土砂災害対策を推進しており、急傾斜地崩壊対策工事等の施設整備にも、重点的・計画的に取り組んでいます。今後とも、限られた予算の中、土砂災害を未然に防止する施設整備を着実に実施するとともに、土砂災害警戒区域等の指定を推進し、地域住民の安全・安心な暮らしの確保を図ります。

【工事概要】

工 事 費：364 百万円  
工 事 内 容：擁壁工 445m



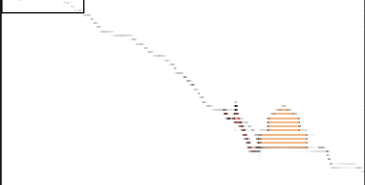
平面図



擁壁と保全人家



横断面



■肱川の治水対策について



大洲市長 しみず ひろし 清水 裕

大洲市は、県庁所在地である松山市から南西に約 50 km、車で約 1 時間のところにあり、人口約 4 万 5 千人のまちです。市の中心部を県下最大の河川である「肱川」が流れ、瀬戸内海へと注いでいます。藩政時代は、六万石の城下町として栄え、その風情が残る町並みや鶴鯛い、肱川より眺める大洲城、臥龍山荘、富士山等の景観により、「伊予の小京都」「水郷大洲」と呼ばれています。



「手のひら」のような形の肱川流域

肱川流域は、流域の殆どが山地で形成され、地盤が脆弱で土砂災害が発生しやすく、また、「手のひら」のような形をしているため、「大洲盆地に川が集中」「河床勾配が緩やか」「河口部が狭い」等の地形的特性から、全国的にも治水対策の非常に難しい河川の一つとされています。

このような地形的特性から、平成 2 8 年の梅雨時期にも崖崩れ等の土砂災害が多数発生するなど住民の不安は大きく、また、度重なる水害にも悩まされております。平成 7 年洪水では、浸水家屋 1, 0 0 0 戸を越す甚大な災害が発生し、これを受け、激甚災害対策特別緊急事業により再度被害防止のための堤防整備がなされ、大幅に治水安全度が向上しましたが、平成 1 6 年・1 7 年・2 3 年に観測史上 1 位～3 位の水位を記録する洪水があり、この 1 0 数年間で 3 回も甚大な浸水被害が発生しました。

このような中、県においては、急傾斜地崩壊対策事業をはじめ土砂災害対策に取り組んでいたいております。また、平成 1 6 年に策定された河道整備、山鳥坂ダム建設、鹿野川ダム改造を三本柱とした「肱川水系河川整備計画」に基づき、国・県において事業が計画的に推進されており、大洲市としても円滑に事業推進が図られるよう積極的な連携・協力に努めているところであります。

これまでの、国・県・市による治水事業及び砂防事業により治水安全度等は、少しずつ向上しており、大洲拠点地区においても、店舗進出数や従業者数が確実に増加しております。また、平成 3 0 年度には、下流区間の堤防整備状況を考慮しながら直轄区間の 7 箇所 of 暫々定堤防の一部嵩上げや鹿野川ダム改造事業が完了予定であり、平成 1 6 年・1 7 年・2 3 年洪水の再度災害防止が図られるとともに、治水安全度のさらなる向上により新たな企業進出や雇用創出に期待が高まっております。



東大洲の暫々定堤防の状況

今後も大規模な自然災害から市民の生命・財産や地域経済を守るため、国・県と連携を図りながら事業を着実に推進し、治水対策や土砂災害対策等あらゆる課題解決に取り組んでいきたいと考えております。